

学校評価計画表(令和2年度)

奈良県立畝傍高等学校 (定時制課程)

教育目標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。			総合評価	
運営方針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。				
令和元年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			
○定通併修三修制度により7名が卒業、他校入学による退学1名を除き全生徒が進級し、生徒の学習成果の充実が図れた。令和2年度から生徒の三修制の希望により応えるべく0限目授業を設定、また1授業時限を延長した学習環境の充実を図れた。	○生徒の学力の向上や基本的な生活習慣の確立を目指す取組を継続し、適切な支援を行いたい。	○規範意識の向上を図る。	○基本的な生活習慣の確立を促す。			
		○自他を尊重する心の育成を図る。	○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。			
		○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。	○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。			
		○教職員の資質と指導力の向上を図る。	○お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりを促す。			
			○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。			
			○将来を見通した進路希望の実現を援助する。			
			○授業公開や研修会などを積極的に行い、自ら指導方法の改善に努める。			
			○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。			
	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
教務部	本校の特色を生かした教育活動が行われるよう、工夫改善を行う。	学校行事の円滑な実施と効率的な授業展開ができるよう、日程調整や時間割編成上の工夫を行う。				
		次期学習指導要領を踏まえ今後の教育課程について具体的に検討する。				
生徒指導部	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。 生徒指導に関わる情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	校門での立哨、校内・通学路の巡視を定期的に行う。学警連携を密にとり、地域の警察との連携を深める。				
		夕礼等で生徒指導の動向や生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。				
進路指導部	生徒自らが自身の適性を知り、それを生かした希望の進路に進むことができるように、進路学習への前向きな態度を養う。	HR活動など自分の適性について考える機会を提供し、それを生かせる場所について考えさせる。				
		進学・就職に関する情報の収集と選択について理解させる。 希望の進路先を調べたり見学することで、社会人として活躍できる素養を育成する。				
人権教育部	メディアを通して伝わる様々な情報を正しく批判的に読みこなし、その中から多様な価値観を理解させる。自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につけさせる。	自分と相手の違いを認めながら、思いやりのあるなかま作りを目指す。				
		講演会や映画会を通して人権について考えさせ、自分の考えを創造的に、効果的に発信できる力を身につけさせる。				
保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。 自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。	スポーツ行事を年2回実施する。				
		体カテストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。 身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。				
第1学年	基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を持たせる。	保護者との連携を図り、欠席・遅刻・早退や問題行動の減少を図る。				
	集団生活における規律や協力について理解を深める。	挨拶やマナー等の大切さについて具体的に指導し、生徒の協調性が向上するクラス運営を図る。				
	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりを目指す。	生徒と教員間のコミュニケーションを十分に図ることで、生徒の変化を早く発見し、適切な対応ができるようにする。				
第2学年	自らの進路について、意識づけを行う。	進路講演会やHR活動、個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが考えられるようにする。				
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。				
第3学年	規範意識を高める。	卒業に向けて必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、責任ある言動を身に付けさせる。				
	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。				
	進路について、方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせ、選択させる。				

	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
第4学年	高校生活最後の1年間の充実と進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。 進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主体的な進路実現ができるよう指導する。				
国語科	漢字の習得に対する関心を高め興味をもたせる。 コミュニケーションを図り意見の交流を大切ににする。	自分の考えを文章に表現させる。 理解してわかることのおもしろさを感じて取り組む態度を養う。				
地理歴史科	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもたせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図る。				
	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学等の教材を取り入れ、文化的教養を高めることを目指す。				
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようになることを目指す。高卒認定制度の受験対策を併せて実施する。				
公民科	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用が可能な話題を積極的に取り入れる。				
	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県の位置や県庁所在地など、基礎的な知識の定着を図る。プリント教材等の活用を積極的に取り入れる。				
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	意見交換等を通じて、自ら問題に対応する力を身につける。				
数学科	基礎的な技能の習得を図る。	基礎的な内容から説明する。				
		自らの手で問題を解く習慣を付けさせる。				
理科	基礎・基本的な事柄の習得を図る。	既習事項の定着を重点的に行う。				
	学習したことを日常生活に活かす力を養う。	科学ニュースや日常生活と関連する学習事項を多く取り入れる。				
保健体育科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。				
	運動をすることの楽しさ、喜びを味わうとともに、出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。				
芸術科 (書道科)	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。				
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。				
		基本的な表現力を定着させる。				
英語科	中学英語からの基礎・基本を大切にしながら、高校英語にも、主体的に授業に参加する態度を養う。	定着を図るために復習に重点を置き、小テストや Reading のテストを実施する。				
	0時限目の授業を通して、英語に対する興味・関心を引き出し、成績の向上を図る。	Listening と Speaking に十分な時間をかけ、英語会話の実践力を身につけさせる。				
家庭科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。 特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。				
情報科	情報技術を活用して、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報を活用して問題を発見・解決する方法を身につけさせる。 個人の果たすべき役割や責任について科学的に捉え、理解させることで、情報モラルを身につけさせる。				
商業科	ビジネス活動に必要な知識や技能を習得させ、社会人として必要な素養の育成を目指す。	各科目の学習内容において、基礎・基本を重視し、演習や実習を通して、知識と技能の定着を図る。				
		ビジネス活動を計数的側面から理解させる。				